

# エンカウンター（ENCOUNTER）

## 第 30 号

平成16年10月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

### 南原繁著作集第10巻より(3)

#### 偉大な理想

ヒルティは今世紀初年代まで生きたスイスの著名な法律学者・哲学者で、大学教授であり、また時に実際の法律行政に参与した教養の高い人であります。…内容は学生時代に理解されるよりも、むしろ卒業後、いな壮年、老齢になって味読されるべきもので、私など座右に備え、この新年にも「幸福論」を読み返しました。

彼の所説を約言すれば、次のごとくであります。およそ人生に幸福で、且つ最も健康な生活とは、純粹な心と偉大な理想と、そして常に有益な仕事を伴った単純な生活である。このほかに、どんな健康法も、これに匹敵する効力をもたない。たとえ、われわれの生活力が衰えるときでも依然として保たれ、むしろ絶えず増し加わる内的・精神的な力がそこから生ずるのであり、それが人間の老年期をもほとんど気がつかぬうちに乗り越えさせ、やがては新しい生命の国に移されるであろう、と。

孔子は「我……五十にして天命を知る。六十にして耳従う。七十にして心の欲するところに従って、矩（のり）を踰（こ）えず」と言いました。さすがに東洋の生んだ聖賢であります。私などは古希をはるかに過ぎても、さような心境からは、なお遠くあります。けれども人は青年から壮年、さらに老年期へと、人生の階段を上るに従って、だんだん心の夾雑物が取り除かれて、かつては努力しても容

易に到り得なかった境地が、おのずから開かれることがあります。

また...私どものごとき、すでに現役を退いた者においても、何らかの形で世に有益な仕事をすることができます。また、たとえ定まった仕事でなくとも、日常の生活に於いて、隣人のために、不幸な見知らぬ人にも、助けの手をさしのべることができるであります。さらに、ヒルティの言う「偉大な理想」とは深遠な学問的真理や哲学的思想をさすのではなく、およそ善いことが、正義が、平和が 聖なる意志が、この祖国の上に、また世界人類の上に、実現されんことを望むのも偉大な理想と称していいであります。

## 他 者 ( 1 )

私がまず申し上げたいのは、皆さんが一人一人、どうか自分を大切にしてもらいたい、自重していただきたい、ということでありませう。...中にはせっかく就職したのに、その職業に対して、多少不満を持っている方もだんだんおありのようです。私は、この間そういう人に二,三会いました。また、只今は満足しておられましても、これからのちにいろいろなことが起こらぬとも限りません。そういう、すべての場合を通しまして、どうか皆さんが、ご自分の職場、職業に対して不平を言わぬように、どんな場合でも、卑しくも、自暴自棄に陥ることのないように願いたいのであります。遠い先のことを考えると、いろいろ問題も起こりえます。

## 他 者 ( 2 )

私は、第一高等学校時代に、当時の校長新渡戸稲造先生から聞いた言葉で、今日まで約五十数年の間、まだ覚えていることが一つあります。それは、「諸君は、いろいろ先のことを考えるけれども、まず、今日の一番近い義務 *the nearest duty* を果すことが大切である。」と。これは、先生得意のトマス・カーライルを引用しての言葉であります。人によりましては *planmässig* と申しますか、なかなか合目的に計画を立てて、ずっと先まで見わたして着々仕事をせられる人も、ないではありません。けれども、そのようにどんなに計画を立てましても、人の生涯には思わぬことが起こりますし、またいろいろな回り道もありましょうし、ときに失敗もありましょう。けれどもそのすべてをとおして、私の申し上げたいのは、どうか、失望しないで、自分を大切に、これは、ゲーテの言葉であります、*immer streben* たえず努力することです。それが結局、皆さんの将来を、それぞれにおいて、完成する道だと思ふのです。

## 他 者 ( 3 )

けれども、私が、とくに今日、皆さんに申し上げてご参考に供したいのは、実は、次のことなのです。すなわち、そういう大事にしなければならぬ自分というものは、もともと自分のためでないということです。何かしら、自分のほかの、他なるもの　これはドイツの哲学者などが、das Andere　ということばを用いております

自分のほかなる他者、または自己を越えた何かのために、自分は結局、存在するのだ、ということであります。...

ここに、ゲーテの言葉があります。...「われわれは、みんな、われわれ以前の人、われわれより前に生きておった人たち、および、われわれとともにある人たち、すなわち同時代人から受け取り、また、学ばなければならない。ところが、多くのひじょうにりっぱな人たちが、そのことを理解しないで、独創という夢にとりつかれて、人生の大半を暗闇の中で手さぐりしておるのだ。いずれの師匠にも、どの先生にもつかず、一切を自分の天才に負っていると自慢しておる芸術家を、私は知っているけれども、何という愚かなものであらう。」　これは 1832 年 2 月 17 日、ゲーテのやがて死ぬ少し前、エッケルマンとの対話の中にある一節です。

## 他 者 ( 4 )

最も独創的・個人的であると思われる学問・芸術にしてしかり。天才と称せられたゲートにして、そうであります。いわんや、われわれにおいてをやです。ことにそれが政治となり、また皆さんの多くが入っていく実業界ともなれば、ことにそうだと思う。多くの先輩と多くの同輩や後輩と一緒にあった協同関係の中からよきものを、価値あるものを作り出すこと、これが、わたくしどもの任務ではないかと思うのです。

私は、年を重ねるに従って、このごろ特にしみじみと考え、自分にわかったことは、われわれは、自分が自覚しておる以上に、他者に、他の人に、たくさんの負債と負い目があるということでございます。...第一にご両親、ご家族、さらに小学校から大学にいたるまでの諸先生がた、恩師はもちろんのこと、諸君の友人、又は知る、知らざるを問わず、多くの人々のかくれた厚意と協力・援助に負うところが多いということは、これは考えていいことだと思います。そういう意味で、縦に横に、それを広げて考えるときに、この日本の民族・同胞・祖国というものも、はじめて大きな意味を持つてくるのではないのでしょうか。

## 他 者 ( 5 )

ご承知のあのアルベルト・シュワイツァーをご覧ください。ヨーロッパ一流の学問と教養と、そして医術まで身につけて、アフリカの暗黒大陸に乗り込み、赤道直下で、80歳にいたるまで、あるいはそれ以上に、一生をささげておるのは、何のためか。...長い間ヨーロッパの白人が、アフリカの黒人に対して負った負い目 白人の犯した罪禍 に対するつぐないということが、彼の動機であったということでもあります。遠くアフリカを例に引くまでもなく、私も日本人としては、近くの中国、インド、また、いま問題になっている東南アジアの諸国、これみな、われわれの隣人であります。

要するに、わたしどもが、皆さんが、一人ひとり、あまり自分のことばかりにかかわらないで、自分より他の者、己を超えたもの

それは神にも通ずる に、自分をささげてこそ、生涯の意義があるのではないか、と思うのです。そう意味に於いて、人は自分を大切にし、自重する必要があります。そこに、はじめて、めいめいの真の個性が自覚され、また、それぞれの生涯の使命というものが発見されるでありましょう。...皆さんがそれぞれのまわりを 社会を、日本を、世界を 明るく善いものにされますように。

## 人間の本分（１）

私が思い起こすのは、かつて旧一高の校長新渡戸稲造先生が言われた言葉...曰く「教育とは学校で習ったことを悉く忘れた後に残っているものをいうのである」と。言はいささか奇矯にひびくかも知れませんが、真理があると思われます。本当の教育というのは、いわゆる自然・人文・社会を通じて、あれやこれやの知識を集積することではありますまい。戦前の教育を受けた人々の間によく一種郷愁的となる旧制高等学校、例えば旧一高三年の生活に於いて、しかば、われわれは何を学んだか。文化系統（当時の第一部）についていえば、国語・漢文・英語・歴史等いずれも中学で一通り履修した科目ばかりである。当時のわれわれは、むしろそれを機縁として、自由にものを考え、人生や世界について少しでも突きつめて考え、また互いに論ずる余裕を持ったことであります。...

そういう意味で、教養の本義はあくまでも「自己教育」であって、どんなに多忙な仕事と生活の間にも、つとめて精神の自由と時間の余裕を持つことであります。人間教養は、決して学生生活をもって終るものでなく、生涯を通して、良書・良友を求めて、継続されることが大切と思えます。



## 人間の本分（２）

前者（注 個人）は個人の物質生活を底辺として、さらに高くは前に述べた教養を含めて、道徳的、宗教的精神生活 神 にまで

至る <sup>ヴァーティカル</sup> 垂直 関係であります。...後者（注 社会共同体）はわれわれの

住む郷土・祖国はもちろん、広く人類世界にまで広がりうる <sup>ホリゾンタル</sup> 水 平 関係と称しうるであります。この社会、この世界が平和でなければ、各個人は真に幸福で安全な生活を送ることはできません。

ここに、私どもが学生時代から銘記して、いまに忘れぬ言葉があります。“ We shall do our best to leave the World better than we found it. €\$この世界を自分たちが見出したときよりも、より善きものにして残すために努力しよう。” これは有名なイギリスの天文学者ハーシェル(1792 - 1871)が、ケンブリッジ大学在学のときに、二人の友人と誓い合ったという言葉である。

天文に限らず、物理、化学、土木・建築、あるいは政治・経済・教育・文学、その他なんであろうと、またその及ぶ範囲の大小を問わず、われわれが死ぬときに、この世界を、われわれが生まれたときよりも、少しでも善いものにして、後代に伝えるために努力することは、われわれ人間の本分ではないでしょうか。

## “生きる”ということ

ここに人間にとって不変の格率がある。「生活は簡素に、思いは高く」と。これはイギリスの桂冠詩人ワーズワースの詩の一節である(Plain living and high thinking)。自分の日常生活は勤めて簡素にということは、富める人にも、どんな繁栄の時代にもあてはまる人間生活の信条であるであろう。そして生じた余剰は少しでも不幸な人々のため、また、いくらでも社会の善いことのために用いることができる。

労働時間の短縮によって生ずる余暇は何か精神的なもの 音楽・絵画・詩歌・学問・宗教など、それぞれ好むところに従って、より高いもの、内面的なものに向けられるべきであろう。労働時間の短縮は、そもそもそのために他ならない。そしてそれは決して専門家や特殊の人のことではなく、人間が人間であるかぎり、都会でも農村でも、すべての人の求めるところでなければならない。これが、われわれ人間の“生きる”ということの意味ではなからうか。

そして、そういう人間個人から成り立つ国民にして、初めて民主国家の良き担い手となり、平和文化国家を築くものとなるであろう。